

令和 2 年度

第 1 回 区民参画組織 麻布を語る会 麻布地区政策分科会

次 第

日時：令和 2 年 8 月 31 日（月）
午後 6 時 30 分～午後 8 時
場所：Microsoft Teams 会議

- 1 開会
- 2 今年度の分科会運営について
- 3 次期麻布地区版計画書策定に向けた検討状況について
- 4 総括
- 5 事務連絡

【配布資料】

- 資料 1 港区基本計画・麻布地区版計画書策定に向けたスケジュール
資料 2 港区基本計画・麻布地区版計画書策定に向けた検討状況
参考資料 アフターコロナ・ウィズコロナにおける地域事業について

港区基本計画・麻布地区版計画書策定に向けた検討状況

分野Ⅰ かがやくまち

事業名	提言		検討状況
六本木安全安心プロジェクト ～ルール違反ゼロの六本木へ～ （協働推進課）	継続（改善）	「ルール違反ゼロ」を目指し、取り組みの強化や周知方法を検討します。	【取り組みの強化】 <ul style="list-style-type: none"> ・実証実験（P.4参照）の実施に向け、関係機関と調整を図ります。 ・六本木安全安心憲章（以下「憲章」という。）で定めた「まちのルール」の一つ「美しい街」の実現を目指し、地域事業所等と連携して、ごみ出しルールの周知徹底を図ります。 ・港区喫煙場所マップの配布場所の拡大、周知方法の拡充を図るとともに、指定喫煙場所のパーテーションに啓発ポスターを掲示する等喫煙者のマナー向上を図ります。 ・麻布警察署と連携して実施している六本木安全安心プロジェクトのキャンペーン活動を通じて、自転車利用者に向けたルール及びマナーの周知を図ります。 【周知方法の検討】 <ul style="list-style-type: none"> ・定期的なアンケートの実施を通じて、憲章のシンボルマークの認知度を把握し、効果的な周知方法を検証します。 ・来街者向け（外国人含む）に新たに東京メトロ六本木駅へ憲章のシンボルマークの掲出や、ちいばすの車体へのラッピング等を通して、まちのルールの周知方法を検討します。 ・外国人を含む転入者へリーフレットや啓発品を配布し、また転入時講習（P.4参照）等、まちのルールの周知方法を検討します。 【参加者層の拡大】 <ul style="list-style-type: none"> ・港区ホームページや地域情報紙等を通じて、賛同事業所の紹介内容の充実・拡充を図るなど、賛同事業所のメリットにつながる取組を検討します。 ・六本木安全安心プロジェクト活動の一つ、環境美化活動を子ども参加型のイベントとして、みんなとエコっとプロジェクトと連携が図れるように検討し、参加者層の拡大を図ります。
「地域と事業所」 防災連携プロジェクト ～更なる共助体制の構築をめざして～ （協働推進課）	廃止		<ul style="list-style-type: none"> ・地域事業としては廃止します。 ・計画計上事業の地域防災支援や駅前滞留者対策等の取組の中で整理統合し、広く区民が関心を持つ内容で実施します。
みんなとエコっと プロジェクト （まちづくり課）	継続（改善）	参加者が地域の環境に関心を持つ事業に改善します。	【事業内容の充実】 <ul style="list-style-type: none"> ・六本木安全安心プロジェクトと連携し、環境美化活動や道路美化活動を通じて地域の環境を知るイベントを新たに検討します。 【事業名称の変更】 <ul style="list-style-type: none"> ・内容に沿った事業名に改めます。 【参加者の意向把握】 <ul style="list-style-type: none"> ・事業実施後に行うアンケートを参考に、参加者の意向を踏まえた新たなコンテンツを検討します。
	改善理由	地域の環境を知る事業展開が必要です。 参加対象者の明確化が必要です。 コンテンツの充実を提案します。	
	提言内容		
		【事業内容の充実】 <ul style="list-style-type: none"> ・地域の環境を知る取り組みの拡充を提案します。 	
		【事業名称の変更】 <ul style="list-style-type: none"> ・「親子でエコっとプロジェクト」への名称変更を提案します。 	
		【参加者の意向把握】 <ul style="list-style-type: none"> ・参加者にアンケートを実施し、新たなコンテンツの企画を提案します。 	

事業名	提言		検討状況
<p>みんなでまちをよくする「ミナヨク」 (協働推進課)</p>	<p>継続(改善)</p>	<p>地域コミュニティの担い手を輩出できる事業に改善します。</p>	<p>【事業目的の変更】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域サポーターとして活躍できる人材を育成するプログラムに再構築します。 ・オンライン講座を活用し、どこからでも気軽に参加できるプログラムを新たに検討します。 <p>【地域コミュニティとの関係構築】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町会・自治会、商店会及び地域団体等との活動の場を提供する等、講座終了後も地域との関係構築が図れる事業内容となるよう検討します。 ・AZABU WORLD FESTA やあざぶ達人ラボで、イベントの企画立案から運営までの一連の役割を担い、活躍できる流れを検討します。 <p>【「ミナヨク」修了生の継続的な活躍】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミナヨク修了生が活動の中心となる新たな区民参画組織を、提言に沿って検討します。(P.4 参照)
<p>AZABU WORLD FESTA (協働推進課)</p>	<p>継続(改善)</p>	<p>ミナヨク修了生が活躍できる事業に改善します。</p>	<p>【事業内容の再構築】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業の目的や対象者を明確にし、オンラインで気軽に参加できるイベント等、事業内容全般を再構築し、内容に沿った事業名に改めます。 ・基本計画の前期3年は検討、調整及び試行期間とします。 <p>【「ミナヨク」参加者や修了生の活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベントの企画立案から運営まで「ミナヨク」修了生との連携が図れる流れを検討します。 <p>【地域事業との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・麻布未来写真館やあざぶ達人ラボのこれまで蓄積した成果物を活用し、集大成となる新たなイベントを検討します。
<p>麻布未来写真館 ～次世代へつなぐ 麻布の記憶～ (協働推進課)</p>	<p>継続(改善)</p>	<p>情報発信の手法を改善します。</p>	<p>【写真の収集】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・港区ホームページやPIAZZA等のSNSを活用し、テーマや場所等を明確にした写真の募集を行います。 <p>【パネル展の改善】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・麻布図書館や麻布管内のいきいきプラザ等で、麻布未来写真館分科会メンバーによる解説付きパネル展の開催を検討します。 ・麻布管内の学校、商店街及び金融機関のロビー等、新たな会場でのパネル展の開催を検討します。 <p>【デジタルアーカイブの充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収集した写真を体系的に整理し、港区ホームページやPIAZZA等のSNSを活用して、定期的な情報発信を検討します。
<p>改善理由</p>	<p>事業の認知度は向上しています。 情報発信の充実が必要です。</p>		
<p>提言内容</p>			
<p>【写真の収集】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・広く写真の提供を呼びかける必要があります。 ・麻布の「今」の写真を集め、パネル展等での活用を提案します。 		
<p>【パネル展の改善】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・演出やレイアウトの工夫が必要です。 ・地域の公共施設や商店街でのパネル展の開催を提案します。 		
<p>【デジタルアーカイブの充実】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・収集した古い写真の整理が必要です。 ・インターネット上で公開するための検討が必要です。 		

事業名	提言		検討状況
<p>地方交流事業 (管理課／協働推進課)</p>	<p>継続（改善）</p>	<p>山形県舟形町との交流を深める事業に改善します。</p>	<p>【内容の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでのサマースクール in 舟形は、当面、開催の見通しが立たないため、視点を変え新たな取組を検討します。 物産展の開催を拡大し、交流先自治体のPRにつながるイベントを検討します。 国宝「縄文の女神」やジオパークを代表とする交流先自治体の魅力を、港区ホームページやPIAZZA等のSNSで紹介し、また麻布管内のいきいきプラザや麻布図書館等の区有施設で展示することで、広くPRを図ります。 活動内容が分かる親しみやすい事業名を検討します。 <p>【方法の検討】</p> <ul style="list-style-type: none"> 双方向での交流を念頭に、イベントの参加者が継続的に活躍する体制を構築します。 交流先自治体とオンラインでのイベント開催や交流機会を創出する取組を新たに検討します。
<p>地域サロン ～ちょこっと立ち寄りカフェ～ (区民課)</p>	<p>継続（改善）</p>	<p>他の事業との連携を深め、事業を拡充します。</p>	<p>【内容の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> イベント参加者に対して、関係機関の情報提供を充実し、高齢者向けの啓発事業等を実施します。 多世代・多文化交流の場となるイベントを新たに検討します。 <p>【新たな参加者の確保】</p> <ul style="list-style-type: none"> いきいきプラザには看護師が常駐しており、安全面から麻布管内のいきいきプラザで開催しますが、開催時間帯を工夫し、新たな参加者の確保を図ります。 オンラインでの開催も含め、参加者が会場に足を運ばなくても参加できる取組を検討します。 <p>【他の事業との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> 麻布未来写真館やあざぶ達人ラボと連携し、内容の充実と参加者層の拡大を図ります。
<p>麻布の魅力探訪事業 ～あざぶ達人ラボ～ (協働推進課)</p>	<p>継続（改善）</p>	<p>蓄積した知識や成果物を活用し、幅広い世代が参加できる事業に改善します。</p>	<p>【コンテンツの充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> インスタ映えスポット巡りやオンライン講演会等、幅広い世代が興味を持ち参加できるまち歩きや講演会を新たに検討します。 子ども向け麻布かるたを作成し、麻布管内の児童館や放課G0への出張講座の実施に向け検討します。 <p>【他の事業との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> イベントの企画立案から事業運営まで「ミナヨク」修了生との連携を図ります。 地域サロンやオンライン講演会等、新たなコンテンツを検討します。
<p>改善理由</p>	<p>年間を通し、舟形町と様々な接点を持つことで、より活発な交流につながります。</p>		
<p>改善理由</p>	<p>年間を通し、舟形町と様々な接点を持つことで、より活発な交流につながります。</p>		
<p>改善理由</p>	<p>年間を通し、舟形町と様々な接点を持つことで、より活発な交流につながります。</p>		
<p>提言内容</p>	<p>年間を通し、舟形町と様々な接点を持つことで、より活発な交流につながります。</p>		
<p>提言内容</p>	<p>年間を通し、舟形町と様々な接点を持つことで、より活発な交流につながります。</p>		
<p>提言内容</p>	<p>年間を通し、舟形町と様々な接点を持つことで、より活発な交流につながります。</p>		
<p>提言内容</p>	<p>年間を通し、舟形町と様々な接点を持つことで、より活発な交流につながります。</p>		
<p>提言内容</p>	<p>年間を通し、舟形町と様々な接点を持つことで、より活発な交流につながります。</p>		
<p>提言内容</p>	<p>年間を通し、舟形町と様々な接点を持つことで、より活発な交流につながります。</p>		
<p>提言内容</p>	<p>年間を通し、舟形町と様々な接点を持つことで、より活発な交流につながります。</p>		
<p>提言内容</p>	<p>年間を通し、舟形町と様々な接点を持つことで、より活発な交流につながります。</p>		
<p>提言内容</p>	<p>年間を通し、舟形町と様々な接点を持つことで、より活発な交流につながります。</p>		
<p>提言内容</p>	<p>年間を通し、舟形町と様々な接点を持つことで、より活発な交流につながります。</p>		

	提案	検討状況
1	<p>区民参画組織の改編</p> <p>提案内容</p> <p>【名称の変更】 ・「区民参画組織麻布を語る会」を「麻布カウンスル」に変更し、区民参画組織の全体会であることを明確にする。傘下の組織は「麻布カウンスル〇〇〇分科会」等と表記する。</p> <p>【委員会の設置】 ・従来併存してきた3つの分科会のうち、主体的な活動が定着した会を「委員会」とする。 ① 地区政策委員会の設置：麻布地区政策分科会を「地区政策委員会」に改称する。 ② 地区広報委員会の設置：新たに「地区広報委員会」を設置し、麻布地区の広報の総合調整と企画立案を担う。麻布未来写真館分科会及び地域情報の発信分科会との連携を図る。</p> <p>【分科会の見直し】 ・「分科会」は、地域事業等の実施を支援する。 ① 地域人財育成分科会の設置：「地域人財育成分科会」を設置し、地域の担い手の育成を目指す。 ② 地域サポーター分科会の設置：「地域サポーター分科会」を設置し、地域事業やイベントの援助者の確保を目指す。</p>	<p>【改編に向けた検討・調整】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の区民参画組織「地域情報の発信分科会」及び「麻布未来写真館分科会」との調整を図り、提言に沿って、区民参画組織の改編に向け、検討します。 ・基本計画の前期3年で検討及び調整を行い、後期初年度の令和6年度から「麻布カウンスル」を全体会とする参画と協働の組織の実現を目指します。 ・新たな分科会（「地域人財育成分科会」及び「地域サポーター分科会」）の設置にあたり、みんなでまちをよくする「ミナヨク」及びAZABU WORLD FESTAは事業目的等も含め、再構築します。 <p>【実現に向けた課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな委員会の設置には「港区麻布地区総合支所区民参画組織麻布を語る会設置要綱」の改正が必要となります。また、各支所の区民参画組織の設置要綱にも影響が生じるため、全庁的な調整等が必要です。
2	<p>事業対象者の明確化</p> <p>提案内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業構築の際、年齢・地域等の要素を考慮し、対象者を明確に定める。 	<p>【事業目的と対象者の明確化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域事業の目的に応じた事業内容、事業内容に沿った明確な対象者となるよう検討します。 ・また、地域事業の目的や対象者が重複する事業について、整理・統合を図り、効率的な事業運営となるよう検討します。 <p>【実現に向けた課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象者を明確にすることで、地域事業の参加機会が失われることがないよう、柔軟な対応が必要となります。
3	<p>六本木交差点周辺のルールの強化</p> <p>提案内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・六本木交差点周辺の安全確保と美化推進を目的とし、路上喫煙、自転車の危険運転や路上放置、ごみのポイ捨て、客引き等への指導を実証実験として行う。路上喫煙については、過料の導入も検討する。エリアは図の範囲とする。 	<p>【六本木交差点周辺での指導を強化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・港区生活安全パトロール隊による指導の対象や範囲の拡大、指導員の増員等、まちのルールの強化につながる方策を支援部と検討、調整していきます。 ・区民等と協働で実施する啓発活動の効果を高める取組について検討します。 <p>【実現に向けた課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・罰則規定となる過料の導入については、所管である支援部との十分な調整及び警察を始めとした関係機関への強力な働きかけが必要です。
4	<p>まちのルールの周知</p> <p>提案内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実証実験「転入時講習」を導入し、外国人を含むすべての転入者にまちのルールやマナーの徹底を図る。転入時講習は運転免許の更新時講習をモデルに、転入届の処理時間を活用し、まちのルールやマナーを15分程度のスライドで視聴してもらう。 	<p>【まちのルールやマナーの周知方法を検討】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・麻布地区総合支所のTwitterやPIAZZA等のSNSを活用し、周知メッセージを発信します。 ・ミナヨク修了生やAZABU WORLD FESTA参加者が、転入者に対して、まちのルールやマナー啓発講座等を実施することを検討します ・「ミナヨク」修了生を中心にまちのルールやマナー啓発の動画を作成し、デジタルサイネージ等の発信を検討します。 <p>【実現に向けた課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症が猛威を振るっている社会状況の中で、「転入時講習」の実施は、講習場所の確保等の問題があります。 ・PIAZZAのユーザー登録とTwitterのフォロワーを増やすことが必要です。

アフターコロナ・ウィズコロナにおける地域事業について

1. 地域事業に対する提案

(六本木安全安心プロジェクト ～ルール違反ゼロの六本木へ～)

- ・MINATOフラッグ制度の新たな認証要素として感染予防が加わる可能性があり、六本木安全安心憲章推奨事業所等認証制度においても感染症予防対策の項目を加えることを検討してはどうか。

(AZABU WORLD FESTA)

- ・感染終息後、麻布版「GO TO キャンペーン」として、“GO TO EAT”を開催し、麻布地区の魅力の一つである「食文化」を紹介してはどうか。

(麻布未来写真館 ～次世代へつなぐ麻布の記憶～)

- ・感染終息までは、個人での撮影や研究を深める等、先を見据えた個人中心の行動期間としてはどうか。

(地方交流事業)

- ・人が行き来することは難しいので、物資支援等を積極的に行ってはどうか。

(地域サロン ～ちょこっと立ち寄りカフェ～)

- ・高齢者にタブレットを貸与して、オンラインで実施してはどうか。

(麻布の魅力探訪事業 ～あざぶ達人ラボ～)

- ・感染終息までは、個人での撮影や研究を深める等、先を見据えた個人中心の行動期間としてはどうか。

(全般)

- ・印刷物だけでなく、動画を活用したりすることで、これまでの活動を閲覧できるようにしてはどうか。

2. 今後の地域コミュニティのあり方についての提案

- ・オンラインで地域と結びつくことができる取組、集まらずにつながりができる取組を考えていきたい。
- ・地域交流のオンライン化が進めば、地域の特色が薄れてくる。また、オンラインでコミュニケーションがとれる中では「地域で交流」だけでよいか考える必要がある。麻布でしか体験できない、触れ合うことができない、新しい地域の有り方を醸成し、広めていくのはどうか。